わたしの東淀川遺産地図

― 1945年の記憶編 ―

東淀川区は、昭和20（1945）年6月7日、15日、27日の3回にわたる米軍の空襲で、大きな被害を受けた。地図中の赤い部分が被害のあった部分で、崇禅寺、柴島、淡路周辺などの区西部に集中している。長柄橋では爆撃機B-29からの爆弾と戦闘機P-51の機銃掃射により約400人が亡くなった。

❼延原製作所

もともとは避雷器をつくっていた会社は、日本軍のための機材をつくる軍需工場に。石炭から人造石油をつくる機械や軍艦用のエンジンの部品などをつくった。

❶国次高射砲陣地

米軍機を攻撃するための旧日本軍の高射砲台。発射するときに建物が邪魔にならないように高さ4.5mの砲台をつくった。6基の砲台が半円形に並べられ、ここで約150人が働いていた。

「ゴーン、グワーン。
あたりが真っ暗になって
何も見えなくなった」
（崇禅寺の駅員だった石井冨恵さん）

B-29

米軍の大型爆撃機。全長30m、全幅43mという大きさから、「超空の要塞」と呼ばれた。6月7日は409機が飛来し、11時9分から12時28分のおよそ1時間半にわたって空襲をおこなった。

焼夷弾による空襲

木造の建物が多い日本を攻撃するために開発され、B-29から投下された爆弾。長さ約50cmの筒状の爆弾38発が目標の上空500mで分解して広がり、中の油脂が建物に引火して火災を引き起こした。

❷崇禅寺

近隣一帯は空襲による被害を受け、亡くなった518人の遺体がここに集まった。寺自体も空襲によりほぼ全焼した。

❸長柄橋

米軍の戦闘機P-51は、逃げる人々を機銃で攻撃した。中でも長柄橋では被害が集中し、女性や子どもも多く亡くなり、「地獄の長柄橋」と呼ばれた。その傷跡が長柄橋の橋脚に残された。

❹崇禅寺駅

当時は京阪神急行電鉄の駅だった。踏切番用の小屋が爆風で吹き飛ばされるなど駅と周辺は壊滅的な打撃を受けた。当時駅員をしていた石井さんは、激しい攻撃の中を生き延び、体験を手記にまとめている。これは当時走っていた100形車両。

食事

食料が配給制となり、米が貴重品になったため、ご飯に雑穀やサツマイモ、カボチャなどを入れ米の代わりにした。すいとんは小麦を練ってつくり、入手できる野草などを入れた汁物。

「ごはんをお上がりなさいと
父が出してくれたお椀の中は菜っ葉ばかり。
お米は探さなければなりませんでした」
（石井冨恵さん）

国民服

着るものを簡素にするために、昭和15（1940）年に定められた。男性は標準服の着用が奨励された。女性はもんぺをはき、空襲のときには名札をぬいつけた防空頭巾をかぶった。

灯火管制

夜間は屋外に光がもれないように消したり、明かりや窓を暗幕で覆ったり、真下だけを照らす専用の電球を使い夜間の空襲に備えた。

チラシ

戦地へ行く男性に代わり、家を守るのは女性たちだった。裁縫を仕事にしていた京本良子さんの母、光子さんは、仕立ての仕事を地域の人にも頼もうと、チラシをつくって呼びかけた。戦争が激しさを増すと、北市民館からミシンを借りて軍服の襟章を縫ったという。

「等間隔で砂ボコリがあがって
その周りには人が寝転んでいた…
たぶん死んでたんだと思います」
（中学生だった坂上貞夫さん）

❺P-51による機銃掃射

空襲警報により高槻中学から下校していた坂上さんは、淀川堤防で2機のP-51戦闘機による機銃掃射を目撃した。

❻ばくだん池

B-29から投下された大型爆弾の衝撃で、地上には無数のクレーターができた。直径10m、深さ5mぐらいの大きな穴もあったという。

戦後70年 わたしの東淀川遺産事業　大阪市東淀川区役所総務課　平成27年10月発行